

第75回日本医学検査学会 ランチョンセミナー 7



女性の見逃される 鉄欠乏のとらえ方 ーフェリチン測定の意味と留意点ー

日時

2026年9月27日(日)
12:00~13:00

席数
140席
(予定)

会場

第6会場 会議室302
幕張メッセ 国際会議場 3F
〒261-8550 千葉市美浜区中瀬2-1

座長

大須賀 穰 先生

帝京大学 臨床研究センター 教授・センター長

演者

江川 美保 先生

京都大学医学部附属病院 産科婦人科 病院講師

〈ランチョンセミナー整理券制のご案内〉

- 事前参加申込が完了された方を対象に、共催セミナーの事前参加申込みを受付けます。
受付期間：2026年8月21日(金)～31日(月) ※詳細は、学会ホームページをご確認ください。
- 事前申込で残券がある場合、以下にて当日分のチケットを配布します。
配布場所：幕張メッセ国際会議場1Fロビー、配布時間：9月27日(日) 7:30～11:00

共催

第75回日本医学検査学会／栄研化学株式会社

女性の見逃される鉄欠乏のとらえ方 —フェリチン測定の意味と留意点—

京都大学医学部附属病院 産科婦人科 江川 美保

鉄欠乏性貧血は女性に最も頻度の高い栄養障害の一つである。しかし、わが国では鉄欠乏性貧血そのものが未診断あるいは未治療のまま軽視されていることも少なくない。一方、低ヘモグロビン値に伴う酸素運搬能の低下として定義される「貧血」は、鉄の負の出納バランスによって鉄欠乏が進行した最終段階である。実際には、ヘモグロビン値が正常な段階から、貯蔵鉄や運搬鉄の減少に伴うさまざまな機能障害が生体内で進行していることが近年明らかとなってきた。しかし、「貧血のない鉄欠乏 (non-anemic iron deficiency; NAID)」の臨床的意義については、医学教育や日常診療の中で十分共有されていない。

本講演では、フェリチン測定の意味を理解するために、まず鉄代謝の基礎と鉄欠乏の進行過程を概説する。その上で、フェリチン、トランスフェリン飽和度 (TSAT)、血清鉄、総鉄結合能 (TIBC) など、各種鉄バイオマーカーが反映する鉄代謝動態とその臨床的意義について整理する。特にフェリチンは貯蔵鉄を評価する上で極めて有用な指標である一方、炎症の影響を受けることや、基準範囲と鉄欠乏を判断するカットオフ値は必ずしも一致しないことなどがあるため、解釈上の留意点について解説する。

さらに、近年蓄積されている海外のエビデンスを中心に、産婦人科領域における診療・研究知見も交えながら、プレコンセプション期から妊娠期にかけての鉄欠乏が、母体のメンタルヘルスのみならず、胎児・児の神経発達にも長期的な影響を及ぼし得ることを紹介する。鉄欠乏は「貧血になってから対応する病態」ではなく、女性のライフコースと次世代の健康を見据えて早期に評価すべき重要な健康課題である。

本講演を通して、鉄欠乏の病態生理とフェリチンをはじめとする鉄バイオマーカーの臨床的意義について理解を深め、女性医療における鉄欠乏診療の重要性を考える機会としたい。